

ホームページのご紹介

「羽田空港BIG BIRD」ホームページ

<http://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/>



ショッピングサイト「羽田空港セレクション」

<http://www.bigbird-shopping.com/>



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年の3月31日まで	
定時株主総会	毎年6月に開催いたします	
基準日	定時株主総会の議決権	3月31日
	期末配当金	3月31日
	中間配当金	9月30日
公告掲載新聞	東京都において発行する日本経済新聞	

株主名簿管理人	〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱所	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL: 0120-288-324 (フリーダイヤル)

 **日本空港ビルデング株式会社**
Japan Airport Terminal Co., Ltd.

〒144-0041 東京都大田区羽田空港三丁目3番2号
(第1旅客ターミナルビル)
TEL: 03-5757-8000
<http://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/>



株主・投資家の皆さまへ

株主通信

第68期 2011年4月1日～2012年3月31日



日本空港ビルデング株式会社

証券コード: 9706





代表取締役社長

鷹城 勲

航空自由化やLCCの参入等による競争が激化する中、 当社グループは、空港内はもちろん、空港外での事業展開を積極的に 推進することで、企業価値の向上を図ります。

株主の皆さまにおかれましては、平素よりご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社第68期の決算（2011年4月1日～2012年3月31日）のご報告をするにあたり、ごあいさつ申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、東日本大震災の影響等を受けた厳しい状況から、緩やかな景気の回復に向けた動きがみられた一方で、欧州の政府債務危機等を背景として減速する海外経済、円高等により先行きの不透明さも懸念される状況が続きました。

航空業界におきましては、航空旅客数は国内線・国際線とも、東日本大震災の影響等により、年度当初は前期比で大幅に減少し、その後は着実な回復傾向が続いたものの、通期では前期比で減少となりました。なお、羽田空港の国際線航空旅客数は、2010年10月の羽田空港D滑走路供用開始に伴う国際定期便の就航により、上期は前年同期比で大幅な増加となり、2年目となる下期も堅調に推移しました。また、航空自由化（オープンスカイ）やLCC（ロー・コスト・キャリア）の参入等による競争の

激化、「国土交通省成長戦略」の提示を受けて設けられた空港運営のあり方に関する検討会によって、空港運営の見直しが議論されるなど、航空業界は、より一層のコスト競争力の強化に向けた取り組みが求められております。

中期経営計画（計画期間：2010年度から2012年度）の2年目である当期の当社グループの業績は、羽田空港国内線第2旅客ターミナルビル増築部（本館南側）に係る減価償却費の増加等により、利益の減少が予想されていましたが、これに加え、羽田空港における国内線旅客ターミナルビルに係る航空会社用事務室等の貸室返却による家賃収入の減少や、東日本大震災に伴う国内線・国際線航空旅客数の落ち込み等の影響を受けました。

こうした中、供用開始から18年が経過する国内線第1旅客ターミナルビルと、国内線第2旅客ターミナルビルとのサービスの均質化を図り、利便性、快適性および機能性の向上に努めることが重要であるという認識の下、第1旅客ターミナルビル・リニューアル計画を推進し、羽田空港の魅力および価値の向上に努めてまいりました。

収益面では、羽田空港国際線旅客ターミナルビルでの受託業務や卸売等を着実に推進したほか、物産展その他のイベント開催等による商業施設の活性化策等を実施して、収益の拡大に努めるとともに、費用面では、徹底したコスト削減を柱とした緊急収支改善策を実施し、利益の確保に努めてまいりました。さらに、中国の四川省成都市において、空港内物販店舗および市中飲食店舗を開店し、こうした海外事業の的確な推進を目的の一つとして双日株式会社および株式会社JALUXとの資本業務提携を行うなど、新たな収益基盤の確立にも努めてまいりました。

以上のように、東日本大震災等に伴う収益の減少と減価償却費の増加等に対応するべく増収・コスト削減の諸施策を実施した結果、営業損益および経常損益につきましては、利益を確保したものの、当期純損益につきましては、有形固定資産の減損処理や法人税率引下げに関連する法律の公布等に伴う繰延税金資産の取崩しにより、損失となりました。

当社は、株主の皆さまに対する利益還元を重要課題の一つとして位置づけており、より一層積極的な姿勢で経営に取り組み、

業績の向上に努め、羽田空港国内線旅客ターミナルビル増築工事等の大規模投資等を考慮し、内部留保を確保すると同時に、安定した配当を継続して実施することを基本としております。

当期の配当につきましては、昨年11月に修正発表しました通り、1株につき7円（うち、中間配当金3円50銭）の配当とさせていただきます。次期の配当につきましては、今後の事業環境や業績等を総合的に勘案し、柔軟に検討してまいりますが、年間配当金1株当たり7円（うち、中間配当金3円50銭）を予定しております。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2012年6月

当社は、羽田空港の成長ポテンシャルを中長期的に大きなビジネスチャンスとして捉えていくとの認識に変わりはありません。一方、航空自由化の加速やLCCの参入など、航空会社間における競争激化や、国管理空港の運営（上モノと下モノ）一体化への動きなど、当社を取り巻く環境は大きく変化しています。

そのような中、当社は『新しい空港運営の未来』の構築に向けて、既存事業の再点検と将来の事業のあり方を具体化してまいります。

また、当社グループは、羽田空港における新たな事業展開に加え、魅力あるターミナルづくりを推進し、それらのノウハウ蓄積により、羽田空港外への事業展開にもチャレンジすることで、新たな環境変化に的確に対応してまいります。

羽田空港における新たな事業展開と魅力あるターミナルづくりの推進

国内線旅客ターミナルビル

- 第2旅客ターミナルビルIV次計画（3スポット増築工事）の遂行
- 屋内庭園「花の楽園」の設置

国際線旅客ターミナルビル

- 東京国際空港ターミナル株式会社（TIAT）との連携およびバックアップ体制の強化
- ホテル事業への参画

羽田跡地周辺

- 羽田空港船着場の運営（観光および防災目的）
- 跡地開発への積極的参画

羽田空港の成長ポテンシャルの最大化

UHHA

当社グループ自らの需要創出
(ヒト・モノ・カネの集積)

ロボット
実験特区

羽田空港外での事業展開へのチャレンジ(中国や東京都心部への商業店舗展開等)

次期中期経営計画において、継続的な成長を目指すべく、
新たな展開ステージへ

NEW
プロジェクト

UHHA 発足

当社は、日本における高等教育グローバル化の第一人者として活躍されている、中嶋嶺雄氏（国際教養大学学長、秋田県秋田市）の掲げるビジョン「日本の高等教育のグローバル化」に共鳴し、University Hub Haneda Airport (UHHA) の構想実現に向け、協力の方針を固めました。

UHHA 構想とは、変化の早いグローバル時代において、喫緊の課題である国際標準の人材育成・交流の促進、その仕組みづくり、高等教育の国際化、そして国際競争力の維持、

これら目的達成のために羽田空港を教育機能の拠点として、ハブ化しようとする構想のことです。

当社は、羽田空港が有する航空ネットワークハブ機能のポテンシャルを最大限に活用することで、高等教育のハブ化構想を支援するとともに、「日本の高等教育のグローバル化」の実現のために発足した、UHHAエグゼクティブ・コミッティが発する提言を、「UHHAプロジェクト」として今後のターミナル運営に反映させていきたいと考えています。

UHHAの目的

日本における**高等教育のグローバル化**への課題を早期解決するため、
産官学連携で具体的施策を検討し実行する

情報・知識・文化の中継基地としてハブ機能のある羽田空港を活用
(首都圏大都市⇄羽田空港⇄地方都市・海外)

羽田空港での
具体的な
施策案

- オープンキャンパスの開催
- 各種ビジネスセミナー、シンポジウム、国際会議等の開催
- 留学・就労のためのグローバル化情報センターの機能の設置 ほか

期待される
効果

- 人材育成の場を提供することにより社会に貢献（企業価値向上）
- 新たな需要創出（航空・非航空旅客）
- 航空業界の発展に寄与
- スペース使用等による不動産収入増
- 広告・イベント収入増
- 集客力向上による商業系収入増

NEW
プロジェクト

ロボット実験特区



羽田空港を日本が誇る先端技術のショールームとすべく、本年2月に「ロボット実験特区」の申請をいたしました*。

年間6,000万人以上のお客さまが利用される羽田空港において、さまざまな先端技術を他に先駆けて積極的に収集・実用導入・技術紹介できる拠点として活用し、そのための実用実験ができる体制を整えるものです。

また、羽田空港の地元である大田区には、先端技術を有する町工場、企業・大学等の研究開発機関が多数存在する

ことから、地元地域+産官学の連携を推進し、積極的に情報発信したいと考えております。

ロボット実験特区等の構想実現により、空港ターミナルビル運営の先駆け、かつ当社グループの拠点である羽田空港が、その先進性・独自性を国内外にアピールし、単なる通過点から、選ばれた場所や目的地となることで、航空・非航空旅客の新たな需要創出にもつながり、航空業界の発展に寄与したいと考えています。

* 認定取得は本年7月頃の予定です。

羽田空港での
具体的
導入候補案

サービス系ロボット

案内ロボット、巡回・警備ロボット、移動支援ロボット等

業務支援系ロボット

清掃ロボット、各種製造ロボット、高所作業や危険作業等の労働支援ロボット等

期待される
効果

- 国家的課題に対して、公共的使命を有する民間企業が率先して、積極的な取り組みで貢献
- 国内における空港ターミナルビル運営の先駆けである羽田空港が、先進性・独自性を国内外にアピールすることが可能



- 広告・イベント収入増
(メーカー企業広告、スペース使用等)
- 先端技術導入における投資抑制
(メーカー協力)

国内線旅客
ターミナル
ビル

第2旅客ターミナルビルIV次計画



2013年春に予定されている羽田空港国内線第2旅客ターミナルビル南側エプロン整備(3スポット増設。国が施工)に対応するため、当社は本年1月、同ターミナルビル南側ゲートラウンジ(出発待合室)、到着コンコースならびに71番~73番スポット固定橋等の増築工事に着手しました。増築部の供用開始後は、固定橋からの搭乗率が増加するなど、利便性、快適性が向上します。

オープンは、エプロン整備にあわせ2013年春を予定しています。



増築イメージ



増築部工事風景(本年5月現在)

国際線旅客
ターミナル
ビル

国際線旅客ターミナルビル拡張計画



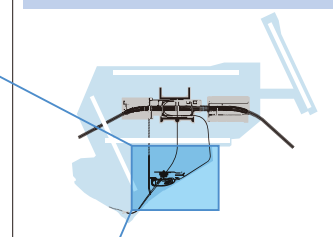
2010年10月、羽田空港に地上5階、延床面積約159,300㎡の国際線旅客ターミナルビルが完成し、供用開始しました。同ターミナルビルは、当社が中核となり航空会社等と出資設立したTIATが建設・管理を行い、当社グループは、施設維持管理業務、商業店舗運営・企画、旅客サービス等の基幹業務の運営を一括受託し、併せて物販・飲食店、旅行業等の事業展開を行っています。

羽田空港は、2013年度末には国際線の昼間の年間発着枠が3万回増えて6万回となり、昼夜合わせて9万回となる予定のため、さらなる旅客増が期待されます。

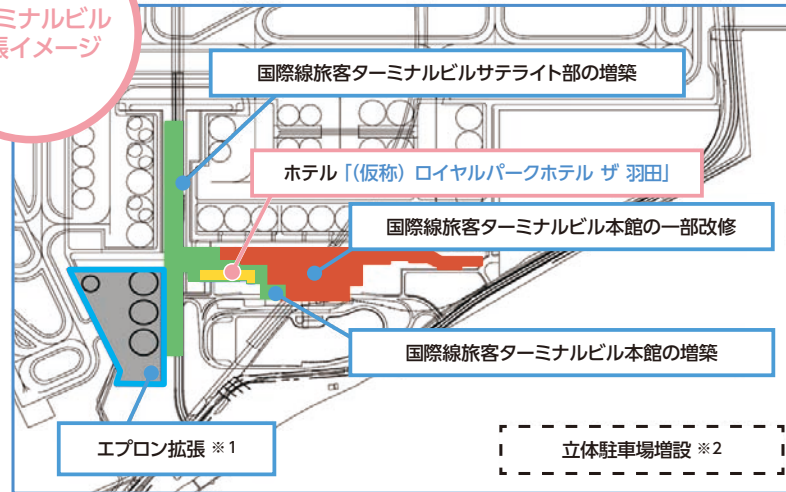
このような旅客増に対応するため、旅客ターミナルビル等の拡張計画として、チェックインロビーの拡充、手荷物受取場の拡充、国内線と国際線間の乗り継ぎ施設の拡充、これらがターミナルビル本館の改修として行われるとともに、8固定スポットの増設がサテライト部の増築として行われます。

当社グループは、この拡張計画について、増資への協力等を含め、全面的にサポートし、羽田空港の24時間国際拠点空港化に一層貢献してまいります。

羽田空港の全体図



ターミナルビル
拡張イメージ



※1 エプロン拡張は国が施工
 ※2 立体駐車場については需要動向等を見極めた上で判断
 出典：TIATプレスリリース

国際線旅客
ターミナル
ビル

「(仮称) ロイヤルパークホテル ザ 羽田」建設



当社は、三菱地所株式会社および同社のグループ企業である株式会社ロイヤルパークホテルズ アンド リゾーツとともに、羽田空港国際線旅客ターミナルビルでのホテル事業に参画することになりました。羽田空港は、今後の国際線発着枠の拡大に伴い、国際線旅客ターミナルビルの拡張が計画されており、海外主要都市からの就航便の増加により、航空旅客数のさらなる増加が見込まれます。また、日本国内の各空港から国際線への乗り継ぎの需要も高まってくると推

測されます。このような背景のもと、「(仮称) ロイヤルパークホテル ザ 羽田」の建設が計画され、2014年秋に開業を予定しています。

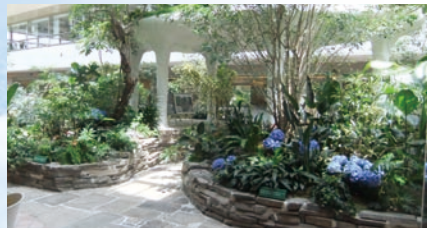
当社の空港旅客ターミナルビル運営、三菱地所グループのホテル運営を通じて、それぞれが長年培ったノウハウ・実績を活かし、当事業へ参画することによりお客さまの利便性の向上、さらには東京の国際都市としての競争力の向上に貢献していきます。

完成イメージ



屋内庭園「花の楽園」オープン

第1旅客ターミナルビル



花の楽園

羽田空港国内線第1旅客ターミナルビル2階出発ゲートラウンジ内中央「CAPTAINS' TOKYO(キャプテンズ トーキョー)」に、英国のチェルシーフラワーショーにおいて、3年連続ゴールドメダルを受賞した石原和幸氏が手がけた「花の楽園—緑の詩をきかせたくて」を、本年3月にオープンしました。

英国チェルシーフラワーショーへの作品出展時に込めた「美しい東北の里山の風景を蘇らせたい」「美しい日本の原風景や自然とともに生きる心を、世界中の人々に伝えたい」というメッセージと同様の思いを込めて、羽田空港内に表現しました。日本の玄関である羽田空港を訪れるお客さまに、やすらぎの空間をお届けします。

石原和幸氏 プロフィール

ランドスケープアーティスト。大学卒業後、生け花の本流「池坊」に入門。花の魅力にとりつかれ、地元長崎から路上販売で花屋をはじめ。2004年、英国の国際ガーデニングショー「チェルシーフラワーショー」に初出展、シルバーギルトを受賞。2006～2008年には、史上初となる3年連続異なる部門でのゴールドメダル受賞の快挙を達成。以降、緑の力で世界に貢献すべく多方面で活躍中。

「ファーストキャビン羽田ターミナル1」オープン

第1旅客ターミナルビル

飛行機のファーストクラスをイメージしたコンパクトホテル「ファーストキャビン羽田ターミナル1」を本年4月オープンしました。

羽田空港国内線第1旅客ターミナルビル内1階中央に位置する「ファーストキャビン羽田ターミナル1」は、羽田空港における早朝・深夜フライト利用者を中心とした宿泊はもちろん、日中時間帯のフライト前後にも利用できる「デユース(時間利用)」にも対応し、ビジネス・レジャーを問わず、空港をご利用のお客さまのさまざまなニーズに柔軟にお応えします。

「ファーストキャビン」は、「ビジネスホテル」と「カプセルホテル」の間の価格帯で、快適に滞在できる新しいスタイルのコンパクトホテルです。コンパクトな空間ながらも、快適にお過ごしいただける十分な広さと機能性を追求し、キャビン(客室)内には大型液晶テレビや無料LAN設備など、厳選された設備をご用意しました。また、フライトの待ち時間を有効活用したいお客さまにもおつろぎいただけるよう、大浴場やラウンジも完備し、ご好評をいただいております。

キャビンの種類は、120センチ幅のワイドサイズベッドやサイドテーブルを配した「ファーストクラスキャビン」と、よりコンパクトに凝縮した「ビジネスクラスキャビン」の2タイプからお選びいただけます。



フロント



ファーストクラスキャビン

ご予約 ▶ ファーストキャビン羽田ターミナル1

03-5757-8755

www.first-cabin.jp/store_haneda-terminal1/

東日本大震災復興支援の取り組み

「東北観光博×東北は負けない」開催

当社は、仙台空港ビル株式会社および関西国際空港株式会社、東北観光博実行委員会と共同で、東日本大震災復興支援イベント「東北観光博×東北は負けない」を、本年3月1日から31日までの1ヵ月間、開催しました。当イベントでは、昨年3月11日に発生した東日本大震災以降低迷している東北地方への観光需要の喚起を図るとともに、被災地で復旧に取り組む人々の姿を、パネル展示および復興支援ライブを通して紹介しました。



復興支援ライブ

広告掲出料による東日本大震災復興支援

海外ブランド・メーカー4社(パルファン・クリスチャン・ディオール・ジャボン/エスティローダー・エージー・ラッペン/フェラガモ・ジャパン/ロレアルルックス)よりご賛同いただき、広告掲出料の一部を復興支援に活用する広告を企画し、この掲出料による支援金を活用し、羽田空港で宇宙イベント特別講演などを開催し、被災地の小学生ならびに保護者を招待しました。



宇宙イベント特別講演参加の様様

● 羽田空港ご招待ツアー

実施日	2012年3月28日(水)～29日(木)
招待者	福島県いわき市の小学生とその保護者19組43名
ツアー概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 宇宙イベント特別講演への参加(協力:財団法人日本宇宙フォーラム) ● 機体工場見学(協力:全日本空輸株式会社)

地球環境保護への取り組み

当社は、これまでも地球環境保護への取り組みとして、旅客ターミナルビルにおける各種設備の省エネ対策を実施するとともに、太陽光発電システムやグリーン電力の導入等を進めてまいりました。

このたび、羽田空港において廃棄物処理等を行っている当社グループの株式会社櫻商会は、本年夏より最新型の焼却プラントを稼働させる予定です。このプラントは排熱を有効利用し、プラント内のエネルギーとして活用することで、CO₂が現状と比べ40%(510t/年)削減されます。



焼却プラント

「イセタン ハネダ ストア」オープン

第1旅客
ターミナル
ビル

羽田空港国内線第1旅客ターミナルビル2階出発ゲートラウンジ内において、三越伊勢丹グループとの共同事業により、紳士雑貨を主とした店舗「イセタン ハネダ ストア」を、本年4月にオープンしました。旅客ターミナルにおける多様化するニーズ、またチェックインの簡便化に伴う搭乗時間の变化等に対応し、さらなる利便性の向上と、よりお客さまにご満足いただける旅客ターミナルビルをめざして、東京の空の玄関である羽田空港ならではのおもてなしの空間を、お届けします。



ISETAN HANEDASTORE

「Tokyo's Tokyo」表参道・原宿エリアにオープン

羽田空港外

本年4月にオープンした「東急プラザ表参道原宿」内において、マンガ・アニメ文化をテーマにした雑貨店舗「Tokyo's Tokyo(トーキョーズ トーキョー)」をオープンしました。

2009年に羽田空港第2旅客ターミナルビル内にオープンした「Tokyo's Tokyo」は、「東京発の旅」をコンセプトとし、空港をご利用になるお客さまに喜んでいただける、新たなお土産の形を羽田より提供してきました。今回、空港外初出店となる「Tokyo's Tokyo」の新店舗では、日本のファッション・カルチャーの情報発信拠点である、表参道・原宿という出店地の特性に相応しく、「マンガ・アニメ文化」を新たなコンセプトとして据え、誰もが楽しめるライフスタイル雑貨と本を厳選し、提供してまいります。



Tokyo's Tokyo

中国成都双流国際空港に2店舗目をオープン

羽田空港外

昨年1月に中国現地法人を設立し、同年6月には成都双流国際空港国際線出発ロビー内において物販店の営業を開始しましたが、本年7月、同空港の第2ターミナル供用に伴い、国内線出発ロビー内に、物販店2店舗目を開業予定です。

また、昨年11月には、成都イトーヨーカ堂5号店(高新店)の新規出店に伴い、飲食店2店舗(洋食グリル店・フードコート内ラーメン店)をオープンしましたが、本年8月末には、全世界のイトーヨーカドー店舗の中で、売上No.1を誇る成都イトーヨーカ堂2号店(双楠店)にも、飲食店3店舗目を開業予定です。

このような協力提携の推進が、日中間の交流促進にも良い影響をもたらすものと期待しております。



物販店2店舗目イメージ

コラム 羽田空港オリジナルスイーツ登場

当社プライベートブランド「羽田ハッピーすいーつ」

羽田空港を訪れるお客さまに「しあわせ」を感じていただきたい、「しあわせ」を届けたいとのコンセプトで、販売スタッフを中心としたプロジェクトチームが、商品開発を担当して立ち上げた、羽田空港オリジナルスイーツです。パッケージがコンパクトで持ち運びやすく、お土産として配りやすいのが特長です。

第1弾 ハッピークーヘン
2011年4月～販売中

羽田空港オリジナルの小さくてかわいい、そしてふんわりとした食感が特徴のバームクーヘンが誕生しました。味わい豊かなバナナ生地と深みのあるチョコ生地を、何層にもしっかり焼きあげました。ビジネスバッグにも入る調度いいサイズのお箱の商品です。



第2弾 ハッピーサブレ
2012年4月～販売中

フランス・ヴァローナ社のチョコレートを配合したビターなチョコレート味と、カナダ・ケベック産100%の純粋なメイプルシロップを使用した、メイプル味の2種類のフレーバーが楽しめる、サクサク食感の飛行機型サブレです。



山本秀正シェフと共同開発

歴代米国大統領の就任晩餐会の総料理長を歴任し、国内外問わず活躍する山本秀正シェフと共同開発した、羽田空港オリジナルスイーツです。

第1弾 東京ショコライス
2011年10月～2012年4月
(販売終了)

2種類のお米をブレンドした軽い食感のライスパフがベースとなり、ビターチョコレートにブラッドオレンジピールを加えた「ビター」と、ホワイトチョコレートにレモンピールを加えた「ホワイト」の風味豊かな、2種類の味がお楽しみいただけるチョコレート菓子です。



第2弾 江戸黒ドーナツ
2012年4月～販売中

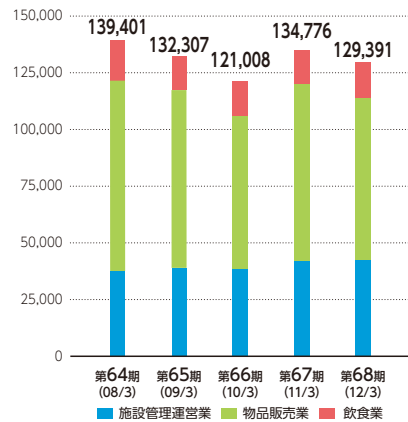
洋菓子のベース生地に和の食材「黒糖」を加えてしっとり焼き上げた、ドーナツ型のブラウニーです。黒糖の香り豊かな風味とチョコレートの味わいが調和した、和洋の素材の絶妙なコラボレーションをお届けします。コーヒーにも日本茶にもどちらにでも合う、国際派のシェフならではの斬新な発想です。



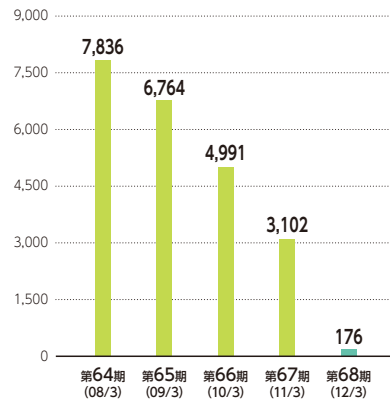
決算のポイント

営業収益の減少や減価償却費の増加に対応するべく増収・コスト削減の諸施策を実施した結果、営業損益および経常損益については黒字を確保したものの、減損処理や繰延税金資産の取崩し等により、当期純損益は赤字となりました。

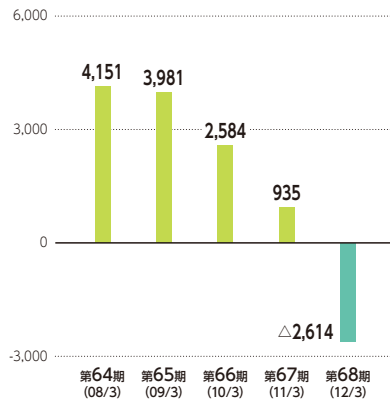
営業収益 (百万円)



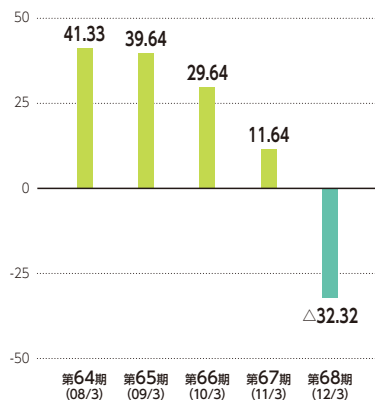
経常利益 (百万円)



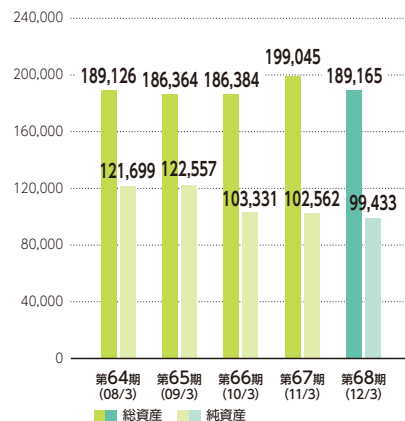
当期純利益 (百万円)



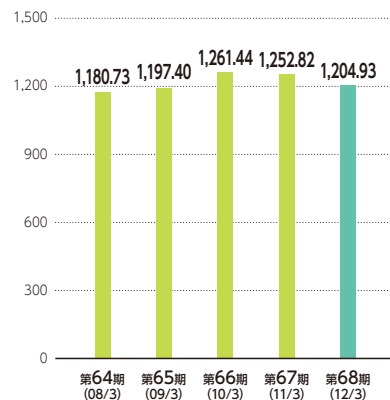
1株当たり当期純利益 (円)



総資産／純資産 (百万円)



1株当たり純資産 (円)



(単位：百万円)

連結貸借対照表 (要旨)	前期 2011年3月31日現在	当期 2012年3月31日現在
流動資産	40,410	36,760
固定資産	158,634	152,404
有形固定資産	133,909	127,912
無形固定資産	1,804	2,303
投資その他の資産	22,921	22,188
① 資産合計	199,045	189,165
流動負債	28,354	26,985
固定負債	68,128	62,745
② 負債合計	96,483	89,731
株主資本	101,727	99,379
その他の包括利益累計額	△1,017	△1,500
少数株主持分	1,852	1,555
純資産合計	102,562	99,433
負債純資産合計	199,045	189,165

資産の部

負債の部

純資産の部

(単位：百万円)

連結損益計算書 (要旨)	前期 自2010年4月1日 至2011年3月31日	当期 自2011年4月1日 至2012年3月31日
③ 営業収益	134,776	129,391
営業総利益	67,506	65,718
販売費及び一般管理費	63,317	64,841
④ 営業利益	4,189	877
営業外収益	1,209	1,434
営業外費用	2,296	2,134
経常利益	3,102	176
特別利益	267	26
特別損失	899	560
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	2,469	△357
法人税、住民税及び事業税	1,089	745
法人税等調整額	511	1,781
少数株主損益調整前当期純利益又は少数株主損益調整前当期純損失(△)	869	△2,883
少数株主損失(△)	△66	△269
当期純利益又は当期純損失(△)	935	△2,614

(単位：百万円)

連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)	前期 自2010年4月1日 至2011年3月31日	当期 自2011年4月1日 至2012年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	12,230	14,947
投資活動によるキャッシュ・フロー	△14,018	△10,314
財務活動によるキャッシュ・フロー	6,929	△5,614
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	5,144	△981
現金及び現金同等物の期首残高	16,653	21,797
現金及び現金同等物の期末残高	21,797	20,816

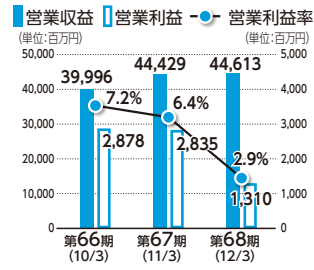
詳細な財務情報は、当社ホームページ「IR情報」をご覧ください <http://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/company/ir/>

- ① 資産合計／有形固定資産等の減少により、前期末比98億8千万円減少し、1,891億6千5百万円となりました。
- ② 負債合計／長期借入金が減少したこと等により、前期末比67億5千1百万円減少し、897億3千1百万円となりました。

- ③ 営業収益／航空会社の貸室返却による家賃収入の減少、東日本大震災に伴う国内線・国際線航空旅客数の落ち込み等の影響により、前期比4.0%減の1,293億9千1百万円となりました。
- ④ 営業利益／前期比79.1%減の8億7千7百万円となりました。

施設管理運営業

家賃収入につきましては、2010年10月からの羽田空港国内線第2旅客ターミナルビル増築部（本館南側）における貸室面積の増加が、収益増加の要因となったものの、同年12月からの第1旅客ターミナルビルにおける航空会社用事務室等の貸室返却が影響し、前期を下回りました。

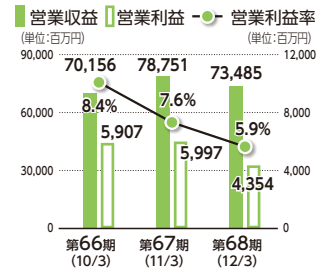


施設利用料収入につきましては、国内線旅客取扱施設利用料の改定により、国内線施設利用料収入が増加したものの、旧国際線旅客ターミナルビルの閉鎖が影響し、前期を下回りました。

その他の収入につきましては、国際線旅客ターミナルビル施設維持管理等の業務受託収入等が増加したことにより、前期を上回りました。

その結果、施設管理運営業の営業収益は 446億1千3百万円（前期比0.4%増）、営業利益は、国内線第2旅客ターミナルビル増築部（本館南側）に係る減価償却費の増加等により、13億1千万円（前期比53.8%減）となりました。

物品販売業



国内線売店売上につきましては、国内線第1旅客ターミナルビル出発ゲートラウンジ中央エリア直営店舗のリニューアルや国内線第2旅客ターミナルビル増築部（本館南側）における直営店舗展開等で販売促進を図ったものの、東日本大震災に伴う国内線航空旅客数の減少等が影響し、前期を下回りました。

国際線売店売上につきましては、国際線旅客ターミナルビルの直営店舗展開等の増収要因があったものの、旧国際線旅客ターミナルビルの直営店舗の閉店、東日本大震災および原子力災害、急激な円高に伴う訪日外国人の減少等が影響し、前期を大きく下回りました。

なお、航空旅客数の回復、各種営業施策の展開等により、国内線・国際線売店売上の減少幅は改善されてきております。

その他の売上につきましては、国際線旅客ターミナルビル店舗への卸売等により、前期を上回りました。

その結果、物品販売業の営業収益は 734億8千5百万円（前期比6.7%減）、営業利益は 43億5千4百万円（前期比27.4%減）となりました。

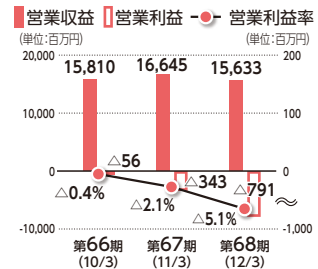
飲食業

飲食店舗売上につきましては、国内線第1旅客ターミナルビル出発ゲートラウンジ中央エリア直営店舗のリニューアルや国内線第2旅客ターミナルビル増築部（本館南側）および国際線旅客ターミナルビルでの積極的な直営店舗展開等の増収要因があったものの、国内線航空旅客数の減少等による影響が大きく、前期を下回りました。

機内食売上につきましては、羽田空港への新規就航外国航空会社を顧客として獲得することで売上を伸ばしましたが、東日本大震災および原子力災害に伴う成田空港における減便等の影響により、前期を下回りました。

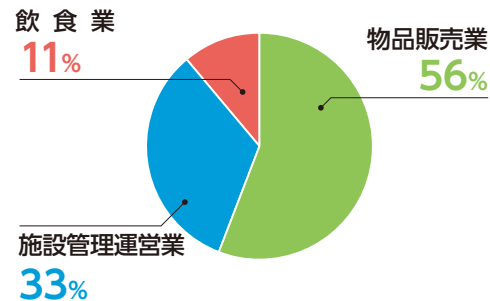
その他の売上につきましては、国際線旅客ターミナルビル飲食店舗における運営業務受託等により、前期を上回りました。

その結果、飲食業の営業収益は 156億3千3百万円（前期比6.1%減）、営業損益は前期より損失が拡大し、7億9千1百万円の損失（前期は3億4千3百万円の損失）となり、抜本的な構造改革、店舗戦略の再構築を取り進めております。



本文内の事業別営業収益には、セグメント間の営業収益が含まれます。

第68期 営業収益比率



当社では3月31日時点の株主さまに対して、毎年6月下旬の年1回、以下の株主ご優待券を配布させていただいております。羽田空港国内線旅客ターミナルビル内物販・飲食店舗、エアポートラウンジおよび羽田空港国際線旅客ターミナルビル、成田国際空港、関西国際空港等の指定店舗にてご利用いただけます。



ご所有株式数 100株以上1,000株未満の場合

ご優待券 1枚 1,000円分

ご所有株式数 1,000株以上10,000株未満の場合

ご優待券 2枚 2,000円分

ご所有株式数 10,000株以上の場合

ご優待券 3枚 3,000円分

株主ご優待券は当社指定店舗にてご利用になれます。詳しくは、以下のURLをご覧ください。

http://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/company/ir/stock_information/

(2012年3月31日現在)

株式の状況

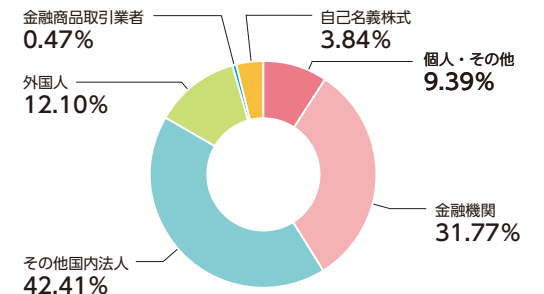
発行可能株式総数	288,000,000 株
発行済株式の総数 (うち自己株式 3,244,814株)	84,476,500 株
株主数	5,935 名

大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率*1 (%)
日本航空株式会社	4,398	5.41
全日本空輸株式会社	4,398	5.41
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (住友信託銀行*2再信託分・京浜急行電鉄株式会社退職給付信託口)	3,484	4.28
株式会社三菱東京UFJ銀行	3,408	4.19
三菱地所株式会社	3,111	3.83
株式会社みずほコーポレート銀行	3,000	3.69
大成建設株式会社	2,831	3.48
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	2,405	2.96
ジェーピーモルガンチェースバンク 385174	2,401	2.95
日本通運株式会社	2,337	2.87

*1 持株比率は自己株式 (3,244,814株) を控除して計算しております。
*2 住友信託銀行株式会社は、2012年4月1日、合併により三井住友信託銀行株式会社となりました。

所有者別株式数分布



会社概要

(2012年6月28日現在)

CORPORATE DATA

会社概要

商号	日本空港ビルディング株式会社 Japan Airport Terminal Co., Ltd.
設立	1953年7月20日
資本金	174億8,920万円(東証一部上場)
事業内容	(1) 羽田空港旅客ターミナルビルの建設、管理運営 ①航空旅客ターミナル施設、見学送迎施設等の建設、管理 ②航空運送事業者および空港構内営業者に対する事務室、店舗、作業場等の賃貸 (2) 物品販売業務 ①羽田空港旅客ターミナルビルにおける物品販売業務 ②成田国際空港旅客ターミナルビルにおける物品販売業務 ③関西国際空港旅客ターミナルビルにおける物品販売業務 (3) その他のサービス業務 ①羽田空港利用者に対する案内業務、駐車場、旅行傷害保険代理業、ホテルあっせん等のサービスの提供 ②成田国際空港利用者に対する旅行傷害保険代理業

本社および営業所等

本社	東京都大田区羽田空港三丁目3番2号 (第1旅客ターミナルビル)
東京事務所	東京都千代田区大手町二丁目6番2号 日本ビル10階
成田営業所	千葉県成田市古込字込前164番地 (成田国際空港内コスモビル)
大阪営業所	大阪府泉南郡田尻町泉州空港中1番地 (関西国際空港内旅客ターミナルビル本館1階)
中部営業所	愛知県常滑市栄町一丁目124番地

役員

取締役会長	門脇 邦彦
代表取締役社長執行役員	鷹城 勲
代表取締役副社長執行役員	土井 勝二
専務取締役執行役員	横田 信秋
常務取締役執行役員	越智 久男
常務取締役執行役員	阿南 優樹
常務取締役執行役員	浅野 文郎
取締役執行役員	松本 真澄
取締役執行役員	米本 靖英
取締役執行役員	河合 誠
取締役	高木 丈太郎
取締役	小谷 昌
取締役	大貫 哲也
取締役	洞 駿
取締役	櫻井 正志
常勤監査役	小川 洋一
常勤監査役	古賀 幸
監査役	赤井 文彌
監査役	樋口 公啓
監査役	大鷲 雅一
専務執行役員	田中 一禎
専務執行役員	山田 克爾
執行役員	丸岡 晋
執行役員	田村 幸宏
執行役員	徳武 大介
執行役員	田中 一仁
執行役員	大谷 益夫
執行役員	足立 仁
執行役員	久保 健治



1953年、当社は羽田空港の旅客ターミナルビルの建設・管理運営を目的として設立されました。現在、当社グループは、施設管理運営業のほか、免税店などの物品販売業、空港内レストランや機内食製造・販売などの飲食業を展開しております。

CS理念

「訪れる人に安らぎを、去り行く人にしあわせを」のもと、すべてのお客さまにご満足いただけるよう、サービスの向上に取り組んでいます。

基本理念

公共性と企業性の調和

- 旅客ターミナルビルにおける絶対安全の確立
- 安定的かつ効率的な旅客ターミナルビル運営
- お客さま本位(利便性・快適性・機能性)の旅客ターミナルビル運営
- 企業体質の強化およびグループ企業の総合力向上

経営方針

日本空港ビルディング(株)

施設管理運営業

- 保守管理
- **日本空港テクノ(株)**
空港ターミナル施設等の保守管理業、環境衛生管理および園芸管理
 - **羽田エアポートセキュリティ(株)**
警備業務、駐車場管理業務
 - **(株) 櫻商会**
エアポートクリーンセンター、廃棄物処理サービス
- サービス
- **(株) ビッグウイング**
広告代理業、イベントの企画および運営
 - **羽田旅客サービス(株)**
旅客サービス業務
 - **ジャパン・エアポート・グランドハンドリング(株)**
旅客ハンドリング業務

物品販売業

- **(株) 羽田エアポートエンタープライズ**
羽田空港、成田国際空港および関西国際空港における店舗運営業
- **国際協商(株)**
食品および雑貨の卸売事業
- **(株) 日本空港ロジテム**
商品の運送業および配送業
- **羽双(成都)商貿有限公司**
成都双流国際空港における物販事業および卸売事業
- **(株) 浜貝**
海産物等の卸売業および小売業

飲食業

- **東京エアポートレストラン(株)**
飲食店業および軽食の販売
- **コスモ企業(株)**
機内食製造販売
- **(株) シー・ティ・ティ**
航空機内用品および食器類の洗浄 ほか
- **会館開発(株)**
飲食施設の運営、宿泊・ホール・会議室の管理運営 ほか

グループ会社

トップメッセージ

特集

トップニュース

財務情報

事業別概況

株主情報

会社情報